坂戸市歴史散歩

坂戸市教育委員会

10 大川道場

大川道場を開いた大川平兵衛英勝は、享和元年（一八〇一）熊谷市上之の渡辺家に生まれ、幼少の頃近くの小鮒家の養子となって栄治郎と称していた。体格・体力ともに非凡であった栄治郎は神道無念流の剣豪秋山要助の門に入り、早くから頭角をあらわして二〇才の若さで免許皆伝を得、二十二才の時、要助の口利きで横沼の名家大川与左衛門の娘いとの婿となり、名を大川平兵衛と改めた。

師秋山要助の没後は、一門の師範役として道場を横沼と川越の通町に構えていたが、その実力が川越藩主松平直克に認められ、士分に取り立てられ剣術指南役として十三石四人扶持を賜った。明治四年（一八七一）七十才で没したが、邸前の墓域には五六九名もの門人により頌徳碑が建てられた。道場の遺構としては近年まで立派な長屋門と見事な老松が残っていたが、いまはその面影をとどめるものは何もない。

大川道場（旧観）

12 大川堤

青木の小字別所を起点とする三芳野堤防は北から東へ大きくカーブし、さらに南へ約四kmも伸びて三芳野耕地を包んでいる。これが大川堤である。越辺川の流れに沿ったこゝには、約八百年前の鎌倉時代に堤防が築かれていて、寛喜四年（一二三二）二月には大破したこの堤防を鎌倉幕府が近隣の地頭に命令して修固させたことが『吾妻鏡』に記されているが、「掻き上げ土手」と言われる程度の低い堤であったため、ひとたび大雨が降れば、越辺川の流れは水流の多い入間川にさえぎられ落合付近から逆流した水は三芳野耕地を氾らんさせた。

積年にわたる水害から村を守るため、横沼出身の製紙王大川平三郎は私財を投じて、現在見られるような立派な堤防を築かせたのであるが、この堤防の完成によって三芳野耕地の水害は激減し、救われた村人達は平三郎の功績を讃えて顕彰碑を建立した。

大川堤と顕彰碑（旧観）